

研究活動報告

日本人口学会東日本地域部会 2005年度第1回

日本人口学会の2005年度第1回東日本地域部会が2005年11月12日、北海道東海大学札幌キャンパス(北海道札幌市)にて開催された。報告タイトルと発表者は下記の通りである。

1. 「地域出生力指標に関する新たな試み：夫婦出生力に注目して」
山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「都道府県別世帯数の将来推計：手法と結果について」
小山泰代・西岡八郎・鈴木透・山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 「年齢別出生率・年齢別順位別出生率の時系列変化：サーモグラフ化による分析の試み」
原俊彦 (北海道東海大学)

1は、地域出生力分析への適用を念頭においた出生力指標の提起とその利用可能性という観点から、Child-Woman Ratioを応用した間接標準化指標の定性的・定量的な検討の結果が報告された。2は、社人研が実施した「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計) - 2005年8月推計 -」に関する内容であり、推計方法の考え方を中心に、結果の概要を含めた報告がなされた。また、北海道での開催ということで、北海道の推計結果についても特別な言及があった。3は、サーモグラフを応用した表現方法を用いた出生力・婚姻力の分析であり、日本をはじめ、欧州各国の長期時系列データを活用した報告がなされた。これら3報告は、いずれも地域部会の特性(報告時間が長い)を活かした丁寧なプレゼンテーションであり、活発な議論が交わされた。(山内昌和記)

2005年度統計関連学会連合大会

2005年9月12日~15日、広島プリンスホテルにおいて2005年度統計関連学会連合大会が開催された。これは2002年度より、日本統計学会、応用統計学会、日本計量生物学会の連合大会として開催されている大会である。今次大会には延べ729名が参加し、活発に報告が行われたが、当研究所や人口に関連する報告としては、

「国民生活基礎調査所得分布推定における各種推定量の検討」

石井太 (国立社会保障・人口問題研究所)
村山令二・關雅夫 (厚生労働省)
西郷浩 (早稲田大学)
樋田勉 (群馬大学)

「二相抽出法におけるブートストラップ法」

西郷浩 (早稲田大学)
樋田勉 (群馬大学)
石井太 (国立社会保障・人口問題研究所)
關雅夫 (厚生労働省)

「ポアソン対数双線形モデルによる将来死亡率の予測～長生きリスクの測定～」

小暮厚之・長谷川知弘（慶應義塾大学）

「人口動態率の2つのテンポ効果：2次元コーホート生命表による解明」 廣島清志（島根大学）

などがあった。

もう一点特筆すべきなのは、人口統計にも大いに関連する「政府統計の見直し」に関し、特別にセッションが一つ設けられ、活発な議論が行われたことであろう。企画セッション「政府統計制度の再構築に向けて」では、西郷浩早大教授がオーガナイザー、廣松毅東大教授が座長となり、井上達夫氏（北方領土問題対策協会）、松田芳郎東京国際大教授による基調講演に続き、福井秀夫政策研究大学院大学教授、竹内啓明治学院大教授からの討論が行われた。

経済社会統計整備推進委員会の委員でもある井上氏の基調講演は、「統計制度－60年目の見直し」と題し、委員会報告について、「公共財」「司令塔」の概念を中心としつつ解説を行ったものであり、松田教授の基調講演は「統計法」の現代化」として、現在の統計法の問題点、マイクロ統計データの活用、実査組織の強化などを話題の中心としつつ、現在の政府統計見直し論議について、そこに至った背景や経緯なども織り込んで網羅的にまとめたものであった。

その後、討論者からの討論に引き続いて、フロアーも交えた議論が行われたが、特に、規制改革・民間開放推進会議で専門委員を務める福井秀夫政策研究大学院大学教授が統計の規制改革と民間開放について行った討論に反対する意見が、講演者・討論者やフロアーから数多く出されたことなどがあり、全体として政府統計の民間開放に関する議論が大勢を占めた。

現在の政府統計見直しに関する議論は、やや（狭い意味での）経済統計の改善に関する議論に傾いてしまっているように思われる。経済社会統計整備推進委員会の報告書でも、統計整備に関する事項として、経済センサス（仮称）、GDP 関連統計、サービス分野の統計、ストック統計などに関する記述など経済統計に関する記述が多く行われている一方で、人口統計に関する記述はあまり充実していない。しかしながら、人口統計は人口学研究のみならず、経済をも含むあらゆる分野にとって基礎となる統計であり、政府統計の見直しに当たり、人口統計についてもっと議論されるべきではないかとの印象を持ったセッションであった。（石井 太記）

日本環境経済・政策学会2005年大会

環境経済・政策学会（会長：佐和隆光・京都大学教授）の2005年大会（実行委員会：栗山浩一、赤尾健一、近藤康之／早稲田大学）が2005年10月9日（日）～10月10日（月）の2日間にわたって新宿区の早稲田大学西早稲田キャンパスで開かれた。今回は事実上の学会設立10周年記念の研究大会であり、初日の午前から2日目の午前にかけて21種類のテーマで37のセッションが行われたほか、「英語セッション」が行われた。各セッションが5～6本の報告から成るので、約200本の報告がなされたことになる。また、2日目午後には公開シンポジウムとしての学会10周年特別シンポジウム「これからの環境経済・政策研究—その課題と方法」が開催された。

学会の性格上、人口に間接的に関連する報告は少なくなかったが、日本人口学会会員によるものは以下の2報告のみであった。

セッションE-1 「アジアおよび途上国の環境問題（4）」

1 環境研究に対する人間開発指数の貢献

野上裕生（日本貿易振興会アジア経済研究所）